

マンツーマンディフェンスに関する Q&A

令和 3 年 1 月 19 日

八戸市バスケットボール協会 U-12 部会

この Q&A は、市内ミニバス関係者からの質問をもとに作成したものです。御指導の参考にしてください。

○トラップディフェンス(ダブルチーム)について

トラップに出るタイミングがチームによって異なるが、以下どちらか？

- 1 ボールを保持
- 2 ドリブルしてから

↓ ↓ ↓以下回答 ↓ ↓ ↓

JBA のホームページにある下記の資料に次のように載っています。

●マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説

(※2019 年 2 月 21 日版)

◆トラップについて(「マンツーマンディフェンスの基準規則 2. プレスディフェンス 及び 4. オフボール ディフェンス」に関する補足)

・ミニバスケットボールにおいて、ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおりとする。

- (1) ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- (2) パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる 時
- (3) 移動が容易に行える距離にある時(自分のマークマンとボールマンの距離の目安:2~3m)

※ U15(中学生)では上記(1)~(3)を適用せず、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。

・スローイン時(サイド・エンド両方)においてのみ、スローインをするプレーヤーにマッチアップする ディフェンス側プレーヤーが 1.5 メートル以内のマッチアップの距離制限を超えて制限区域内の オフボールプレーヤーをトラップすることは許される。

※ 「マンツーマンディフェンスの基準規則」および「マンツーマンディフェンスの基準規則の補足 解説」におけるトラップの定義:ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

○オフザボールのオフenseとの距離感について

3P ラインの外にいるボールを保持していないオフenseに対し、マークするディフェンスがミドルライン付近まで離れているのは OK か?指差ししていれば良いのか?

↓ ↓ ↓以下回答 ↓ ↓ ↓

①オフボールオフenseの選手(以下A)がボールサイドにいる場合は、オフボールオフenseのAを守るディフェンスの選手(以下B)は、ボールサイドでのディフェンスになると思います。この場合、ミドルラインにはいけないと思います。Aがヘルプサイドにいる場合は、Bはミドルラインにいることはできます。ヘルプサイドで3ポイントラインの外側にいるAにボールがパスされたとき、Aを守るディフェンスBは3ポイントラインをめやすとするマッチアップエリアからは、ディフェンスをする必要があります。例えば、パスを受けたAがハーフライン近くにいる場合、Bは3ポイントラインからはディフェンスをする必要があります。

Aが3ポイントラインから1.5m位の所にいる場合、Aがパスを受けた時にBはAから1.5m離れた3ポイントライン上からマッチアップする必要があります。

②指さしとともにすることがあります。(ディフェンスをする時に常に指さししなければならないというわけではありません。)

①、②ともに、JBA のホームページにある下記の資料を参考にしてください。

●マンツーマンディフェンスの基準規則

(※2019年2月21日改訂版)

4. オフボールディフェンス

ディフェンス側プレーヤーは常にマッチアップするオフェンス側プレーヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレーヤーは、自分のマークマン(オフェンス側プレーヤー)及びボールも見えるポジションを取ること(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレーヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンス側プレーヤーが見えるポジションに一緒に動く)。ただし、フェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフェンス側プレーヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレーヤーもオフェンス側プレーヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレーヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。ただし、ヘルプまたはトラップにいく場合を除く。

3. オンボールディフェンス

ディフェンス側プレーヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大 1.5 メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフェンス側プレーヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレーヤーがボールマンにつく意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをすること。

1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレーヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレーヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップの基準はマッチアップエリア(3 ポイントラインを目安とする)内では常に適用される。ディフェンス側プレーヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、コミッショナーにわかること。

●マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説

(※2019年2月21日版)

2019/2/21 追加内容

◆マッチアップ

・3 ポイントラインがない場合は「目安」という文言を生かす。

・手のサイン等があっても「明確に」という文言が当てはまらない場合、コミッショナーが「マンツーマンディフェンスをしていない」と判断する場合がある。

・マッチアップエリア外において、スクリーンを外すときのオンボールディフェンス 1.5 メートル以内は旗の対象にしない。マッチアップエリア内であれば、旗の対象となる。

◆オフボールディフェンス

- ・ボールとマークマンの位置を確認し自分のポジションを確定するための首振りは認められるが、ポジションを固定（動かない）しての首振りは「常に」という文言に反する。
- ・2線（ワンパスアウェイ）と3線（ツーパスアウェイ）のディフェンスに距離の指定はないが、他の項目に触れる場合は違反の対象となる。
- ・ボールがドリブルまたはパスで動いた場合だけでなく、オフenseが動けば同様の扱いとなる。
- ・「予測に基づいてボールを持っていないオフense側プレーヤーをトラップすることは許される」とは制限区域内にオフenseがいる時点のものを指し、オフenseが制限区域外にいるときには該当しない。

○アイソレーションについて

アイソレーション中はマンツーマンディフェンスが解除になると思うが、アイソレーションが解除されたらマンツーマン対応に戻さなければいけない、ということを確認したい。

↓ ↓ ↓以下回答 ↓ ↓ ↓

○アイソレーションについてです。アイソレーションについては、マンツーマンディフェンスの基準規則の補足説明のオフボールディフェンスの説明にある箇条書き(・)の4つめに、説明があります。

●マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説

(※2019年2月21日版)

2019/2/21 追加内容

- ◆オフボールディフェンス ・ボールとマークマンの位置を確認し自分のポジションを確定するための首振りは認められるが、ポジションを固定（動かない）しての首振りは「常に」という文言に反する。
- ・2線（ワンパスアウェイ）と3線（ツーパスアウェイ）のディフェンスに距離の指定はないが、他の項目に 触れる場合は違反の対象となる。
- ・ボールがドリブルまたはパスで動いた場合だけでなく、オフenseが動けば同様の扱いとなる。
- ・「予測に基づいてボールを持っていないオフense側プレーヤーをトラップすることは許される」とは制限 区域内にオフenseがいる時点のものを指し、オフenseが制限区域外にいるときには該当しない。
- ・オフenseが明らかなアイソレーションの時は、自分のディフェンスを少しでも捉えていればこの限りで はない（常に移動しなければいけない、ではない）。

○市内での共通認識、ガイドラインが必要と感じている。U-12 部会としての共通認識、ガイドラインを示してほしい。

↓ ↓ ↓以下回答 ↓ ↓ ↓

○市内での共通認識、ガイドラインとして、JBA の資料をご覧ください。JBA のホームページを下にスクロールし、右側にある「15歳以下のマンツーマンの推進・実施について」のバナーをクリックしたところに資料はあります。当日までに各自で資料をご覧になるか、各会場に、JBA のホームページにあるコミッショナーの資料を1部ですが届けておきます。コミッショナーをする前にご覧いただければと思います。

担当 八戸市バスケットボール協会 U-12 部会マンツーマンコミッショナー担当
Mail:hachibas.u12@gmail.com